

2009年1月9日

コンプライアンス・CSRレポート  
(2008年10月～12月)

関西テレビ放送株式会社



— 目 次 —

第 1	はじめに	.....	(1)
第 2	2008年10月からの経過	.....	(2)
第 3	社団法人 日本民間放送連盟への完全復帰について	.....	(4)
第 4	番組制作等、CSR活動について 各部門の取り組み	.....	(5)
	(1) 全社的なCSR活動	.....	(5)
	(2) 放送倫理部会の活動	.....	(5)
	(3) 「S-コンセプト」他、本社の番組制作部門の取り組み	.....	(7)
	(4) 東京の編成制作部門の取り組み	.....	(8)
	(5) 報道部門の取り組み	.....	(9)
	(6) スポーツ部門の取り組み	.....	(10)
	(7) CS放送等、クロスメディア部門の取り組み	.....	(12)
	(8) 技術部門の取り組み	.....	(12)
	(9) 営業部門の取り組み	.....	(13)
	(10) イベント開催部門の取り組み	.....	(14)
	(11) 番組審議会の活動	.....	(15)
第 5	視聴者の方々とのつながりやメディアリテラシー活動	.....	(17)
	(1) 活性化委員会の開催・審議状況について	.....	(17)
	(2) 視聴者対応状況について	.....	(19)
	(3) 「カンテレ感謝祭」の開催について	.....	(20)
	(4) 「月刊カンテレ批評」と「テレビの木」について	.....	(21)
	(5) メディアリテラシー活動の現状	.....	(22)
第 6	コンプライアンス態勢の構築	.....	(24)
	(1) リスクマネジメント態勢等の確立について	.....	(24)

	(2) 社内弁護士の採用について	.....	(24)
<b>第7</b>	<b>経営機構について</b>	.....	<b>(26)</b>
	(1) 機構改革後半年間の状況について	.....	(26)
	(2) 関係会社並びにグループ政策について	.....	(26)
<b>第8</b>	<b>企業情報の開示</b>	.....	<b>(27)</b>
	(1) 会見等、企業情報開示の状況	.....	(27)
	(2) ホームページへの掲載実績等	.....	(27)
<b>第9</b>	<b>放送人倫理の確立に向けた 教育・研修等</b>	.....	<b>(29)</b>
	(1) 社内研修、啓発、放送倫理・コンプライアンス研修会	.....	(29)
	(2) 放送倫理セミナーへの参画について	.....	(29)
<b>第10</b>	<b>おわりに</b>	.....	<b>(31)</b>

## 第1 はじめに

---

視聴者の皆さまに対し、2008年10月から12月にいたる3ヵ月間の当社の活動についてご報告申し上げます。

まず、10月27日（月）に社団法人日本民間放送連盟（民放連）の緊急対策委員会及び理事会において、当社の活動停止処分の解除が承認されました。当社は2007年4月に同連盟を除名となり、2008年4月には再加入が認められたものの会員活動は停止されておりました。今後は民放連の場においても、放送倫理の向上のため微力を尽くしてまいる所存です。

また当社は、11月22日に開局50周年の節目を迎えました。当社は11月22日・23日の両日、50年の歴史を支えていただいた視聴者の皆様への感謝をテーマに、大阪市住之江区の「インテックス大阪」で「カンテーレ感謝祭」を開催し、2日間でのべ4万人の方々にご来場いただきました。会場には23の参加型・体験型のブースを設け、番組の裏側や制作者の仕事について視聴者の皆様にくらかご理解いただけたのではないかと考えています。また、運営には当社の役員・社員が多数参加し、視聴者の皆様と直接触れ合う機会を得たことは大きな財産になるものと確信しております。

当社では「発掘！あるある大事典」調査委員会からの提言<sup>1</sup>、関西テレビ再生委員会の答申<sup>2</sup>に基づき、引き続きさまざまな課題に取り組んでおります。また関西テレビ活性化委員会（以下「活性化委員会」といいます）が示された「見解」につきましても、これを経営ならびに事業遂行に反映させるべく努めております。

現今のテレビ広告市況は、放送業界がいまだかつて経験したことのないレベルの低落を見せており、当社としても様々な経費節減策の実施を迫られています。しかしながら、放送番組の質や視聴者の皆様へのサービスを低下させることのないよう、心がけてまいります。

当レポートは視聴者の皆様方にご覧いただくとともに、活性化委員会においてもご検討いただき、ご意見を頂戴いたしたいと考えます。

---

<sup>1</sup> <http://www.ktv.co.jp/info/grow/pdf/070323/chousahoukokusyo.pdf>

<sup>2</sup> <http://www.ktv.co.jp/info/grow/pdf/070529/tousinsyo.pdf>

## 第2 2008年10月からの経過

---

- 10月 3日(金) 第27回放送倫理部会開催
- 10月 9日(木) 近畿民放社長会開催 当社の民放連全面復帰支持を表明
- 10月10日(水) 心でつながるPJチーム 第7回会合  
大阪府立東住吉高校・芸能文化科の生徒 スタジオ見学
- 10月15日(水) 社内番組情報閲覧システム稼動
- 10月17日(金) 関西テレビ活性化委員会 第7回会合
- 10月18日(土) 「親子サイエンスフェア」を大阪ビジネスパークにて開催  
イベント「はたらくるま」に中継車とSNG車を展示
- 10月21日(火) (社)全日本テレビ番組製作者連盟主催 ATP賞テレビグラ  
ンプリで、「あしたの喜多善男」がドラマ部門最優秀賞を受賞
- 10月27日(月) 民放連 緊急対策委員会及び理事会で、当社の活動停止処分の  
解除を承認
- 10月28日(火) ホームページリニューアル
- 10月29日(水) 全体会議開催
- 11月 7日(金) 第28回放送倫理部会開催
- 11月10日(月) リスクマネジメント関連 責任者ヒアリング開始(12月迄)  
KPMG主催 放送業界セミナーに担当者参加
- 11月14日(金) 関西テレビ活性化委員会、「コンプライアンス・CSRレポート」  
に対する見解を表明  
開局50周年に向けた全社員集会開催
- 11月15日(土) 開局50周年記念スペシャルウィーク (11月23日迄)
- 11月17日(月) 社長記者会見
- 11月18日(火) 中小企業庁主催、下請法講習会に担当者参加
- 11月22日(土) 2日間にわたり 開局50周年「カンテレー感謝祭」をインテッ  
クス大阪にて開催 入場者数 合計4万人
- 11月23日(日) 「テレビの木」開局50周年スペシャルに福井社長出演
- 12月 5日(金) 第29回放送倫理部会開催
- 12月 8日(月) 第16回放送倫理・コンプライアンス研修会  
(講師 三山峻司 弁護士)
- 12月 9日(火) リスクマネジメント会議開催
- 12月12日(水) 兵庫県川西市立陽明小学校にてアナウンス技術指導
- 12月14日(金) 開局50周年記念番組「地球☆感じてミッション！」放送
- 12月18日(木) 心でつながるPJチーム 第8回会合

12月20日（土） 科学番組 S-コンセプト「お天気キャスターサミット」  
関西地区で放送

### 第3 社団法人 日本民間放送連盟への完全復帰について

---

当社は、2007年1月7日放送の「発掘！ あるある大事典Ⅱ」における捏造問題を受けて、同2月15日に（社）日本民間放送連盟（以下 民放連と表記）におきまして、活動停止処分となりました。

さらに調査を進めた結果、当該回以外にも内容の捏造や不適切な表現があったことがわかり、同3月30日総務省より「警告」の行政指導を受けました。

このような状況を受け、同4月13日民放連の理事会並びに総会において、当社の除名処分が決定いたしました。除名処分は、これまでは1件のみであり、番組内容をめぐりものとしては、過去に例を見ない厳しいものでした。

その後当社では、「関西テレビ再生委員会」の答申書に基づく、経営機構の改革や番組制作体制の様々な見直しをはじめとする諸施策に着手し、再生への取り組みを行ってまいりました。

2008年に入り、近畿地区の民放各社から当社の民放連復帰を推薦する会議の開催が提唱され、2月に社長会が開かれましたが、当社の北京五輪に関する番組情報配信問題の発生により、復帰についての議論が見送られました。

その後の当社の取り組みを受けて4月に開催された近畿地区の民放社長会を経て、4月17日民放連において、緊急対策委員会と理事会とが開催されました。これらの会議では、北京オリンピックの近畿地区における放送について協議され、その結果、近畿の視聴者の方々の利益を重視して「フジテレビジョン系列が優先放送権を持つ種目は、関西テレビが放送することが望ましい」との結論が出されました。同時に会員活動は当分の間停止するといった条件で、当社を民放連に再加入させることも決定されました。

その後も当社では、経営機構の改革やコンプライアンス態勢の構築、メディアリテラシー活動をさらに進めてまいりました。

そして2008年10月、近畿地区の民放社長会で「地元社として民放連への全面復帰を支持する」といった意見を取りまとめていただき、27日に開催された民放連の緊急対策委員会と理事会でご賛同をいただき、当社は民放連に完全復帰させていただきました。

当社では、この1年半以上に及ぶ処分を厳粛に受け止め、決して忘れることなく、今後は微力ながら放送文化の発展に力を注いでいく所存です。



## 第4 番組制作等、CSR活動について各部門の取り組み

---

### (1) 全社的なCSR活動

当社では、コンプライアンス態勢等の構築や積極的な企業情報の開示、情報セキュリティポリシーの再構築など、CSRを常に認識して企業活動を行っておりますが、すでにご報告しましたように「環（カン）テレ宣言」を2008年8月に策定し、環境負荷の少ない社会の実現に貢献する姿勢を明確にし、社内キャンペーンを行うなど、着実に施策を進めております。

特にクールビズ期間中のエネルギー使用量は、9月が前年比93%と減少するなど、2007年に比べ、減少しました。同時に夏場のヒートアイランド対策として10階テラスの緑化も試みましたが、秋に実った農作物の収穫ができるなど、その効果の大きいことを認識しました。

また情報セキュリティポリシーの再構築についても、社内各部署が情報資産の精査を行い、現在、情報セキュリティ管理規程作成が最終稿の段階まで至っており、年明けには制定、教育へと作業を展開する予定です。

このように当社では、各方面においてCSR活動を展開しており、今後も弛まず取り組みを続けていく所存です。

### (2) 放送倫理部会の活動

放送倫理部会はコンプライアンス委員会の下部組織であり、コンプライアンス諸課題のうち、放送番組にかかわる全事象すなわち番組内容・制作過程管理・視聴者対応など広範囲の課題を検証討議し、提言していく社内横断プロジェクトで、「発掘！あるある大事典Ⅱ」捏造発覚後の2007年2月に設置され現在に至っています。2008年12月までに29回を数える定例会では、各番組制作現場で日々生起する諸問題諸課題について、時宜にかなう報告と忌憚のない意見交換が図られています。またCMや通販番組のコンプライアンスについても、放送倫理の重要な課題として論議を深めました。民放連正式復帰（10月27日 理事会決定による会員活動停止処分の解除）に伴い、民放連より当社に諸会議委員の招請が行われ、放送倫理関係では「放送基準審議会」に専務取締役が、「放送基準審議会」管轄の「番組部考査専門部会」に考査部長が、それぞれ委員を委嘱されました。考査部長は当放送倫理部会事務局を担務していますので、今後 民放連考査専門部会の審議事項は必要な保秘を講じた上、より迅速緊密に放送倫理部会において共有に努めます。

#### 1) 日本民間放送連盟放送基準解説改訂討議への参画

民放連・放送基準審議会は現在、「放送基準解説書」の5年ごとの総合的な改訂を作業中で、2009年4月完成を目途に検討を進めています。「関西テレビ放送基準」は

「民間放送連盟放送基準」本文条項に準拠したのですが、連盟完全復帰に伴い、解説書にも完全準拠することとなります。来春刊行予定の「放送基準解説書2009」へ向けての改訂討議はここまで当社除名中及び仮復帰中に行われましたが、当社正式復帰（10月27日）後、「発掘！あるある大事典」捏造事案ならびに「BRC第28号決定・勧告」について、「解説」事例として採録される方向で照会と確認を求められました。

## 2) 2008年10－12月期の放送倫理部会の概要

第27回（10月3日）の放送倫理部会においては、BPO放送倫理検証委員会第4号決定「光市母子殺害事件の差戻控訴審に関する放送についての意見」<sup>3</sup>との関連で、他社放送番組を通じて被告弁護団に対する懲戒請求を呼びかけた橋下徹氏（弁護士・現大阪府知事）が訴えられた裁判で、橋下氏が敗訴した問題で、出演者の責任・番組の責任などについて討議を行いました。

第28回（11月7日）と、第29回（12月5日）においては、上述の「民間放送連盟放送基準解説書改訂」について、長きに渡った除名—仮復帰中の情報ブランクを取り戻すべく、民放連・考査専門部会に復帰した考査部長より報告を受けました。論議のひとつの焦点は、放送番組全般に占めるCM広告の重要性、ならびに広告のコンプライアンスの重要性についてです。「CM」が放送番組の重要な構成要素であり、であるが故に、番組と同等の、あるいは番組にも優るコンプライアンスをスポンサーとともに実現しなくてはならないこと。「テレショップ番組」「持ち込み番組のあり方」など多岐にわたる「民放連留意事項」などについて、この際改めて認識を深めてゆく旨、放送倫理部会で確認しました。

## 3) CM考査の放送倫理

世界同時不況が懸念される市況の急激な逼迫の中で、CMテレビ出稿をめぐる営業活動は「あるある」ダメージとはまた異なり、新たな困難に際会していることは事実です。

であればこそ、われわれのメディアの媒体価値を、公序良俗とコンプライアンスの側に立ってより一層高めていく努力が必要です。企業市民として「企業の品格」をともに高めて行く「局—スポンサー」の苦難の時代ならばこそその関係を構築しなければなりません。

CM考査は「CM表現考査」と「スポンサー業態考査」を、放送業務局CM部とコンプライアンス推進室考査部で担当していますが、放送倫理部会においても報告審議事項とすることを確認しました。2008年8月より、放送倫理上の問題が想定されるCM案件については、経営判断を仰ぐなどのルール化を措置しました。

---

<sup>3</sup> [http://www.bpo.gr.jp/kensyo/decision/001-010/004\\_key5-nhk.html](http://www.bpo.gr.jp/kensyo/decision/001-010/004_key5-nhk.html)

### (3) 「S-コンセプト」他 本社編成制作部門の取り組み

「関西発の地域番組の充実」をテーマに自社制作番組の大幅リニューアルを行った4月改編の流れを受け、10月改編においては4月以降に撒いた種を着実に育てることで「ローカル番組の強化充実」をめざしました。

再生への取り組みとして生まれた「S-コンセプト」「オッチモ！」やメディアリテラシーにつながる番組についても継続して編成いたしました。「S-コンセプト」につきましては、詳しく後掲いたします。

また、新たな取り組みとして、幅広い層でブームを呼んでいる落語寄席を日曜早朝に編成、上方落語の魅力をじっくりと満喫いただいています。

4月に大幅な改編を行ったこともあり今回の改編は小幅なものとなりましたが、撒いた種を大きく花開かせていくため、各番組の強いところを強化し弱点を克服すべく取り組んでいます。

さらに11月には当社の開局50周年を記念して長年に亘りご支持いただいていた視聴者の皆様に改めて感謝の気持ちをお伝えするべく開局記念日を中心とする週を「スペシャルウィーク」に設定。多数の特別番組を編成しました。

パミール高原の高地で暮らす少数民族を長期にわたって取材したドキュメンタリー「天のゆりかご」をネット番組として放送したほか、50年間にわたり取材してきた映像をもとに当時の記者、カメラマンの貴重な証言も交えて構成した「映像と証言で綴る昭和の記録」、芸術祭などの受賞作品を厳選した「名作ドキュメンタリー de カンテーレ」を連日放送しました。

開局記念日の22日と翌23日には「感謝！感激！カンテーレ！」を生放送で、合計11時間余りにわたり、当社制作による歴代名物番組の紹介や出演者のトークなどを通じて50年を振り返りつつ視聴者のご支持に感謝する特別番組を放送しました。

12月に入りましても「開局50周年記念」として制作プロダクション、東京編成制作センターと共同で「地球感じてミッション」を放送しました。番組内容は、貧困や病にあって生き生きと暮らす世界の子供たちの姿を通じて、生きること笑うことの意味を改めて見つめ直すものでした。

#### \* 「S-コンセプト」について

再生委員会の提言をもとに始まりました当社の科学番組「S-コンセプト」は、2007年度の“科学的要素を含んだ健康情報番組”から2008年度はさらに範囲を広げ、健康にとどまらず、“広く日常に関わる科学的要素を含んだ番組”をテーマとして取り組んでいます。10月～12月においては、12月20日16:00～17:25で、『緊急開催！お天気キャスターサミット！！ニッポンの空が危ない！』と題して、放送しました。

キー局で活躍中の気象予報士、石原良純氏や森田正光氏等にお集まりいただき、今年

話題になった集中豪雨の一種「ゲリラ豪雨」について各々の考え方を議論いただいたり、リポーターが台風を体感するVTRを紹介したり、「お天気」について、楽しく色んな角度から関心を持ってもらう内容でした。

さらに2009年1月4日には、「食の未来」をテーマに現在の「食」への取り組みの最前線をご紹介する「食の雑学クイズ ニッポンの食の未来 食卓20xx」が放送されます。

また、今後は「アレルギー」について多面的に考えていく内容も制作を予定しております。

#### (4) 東京の編成制作部門の取り組み

##### 1) 編成部について

10月改編期首においては、開局50周年記念ドラマ「ありがとう、オカン」の放送を無事終えました。制作部と連携して、様々な宣伝展開に取り組みましたが、放送5日前には都内のホテルで先行試写会を行い、お集まりいただいた一般視聴者の皆さんの前で主演の渋谷氏、村上氏、大竹氏にご挨拶をいただくなどしました。

また、10月クールの火曜22時ドラマ「チーム・バチスタの栄光」については、渋谷109-IIにおいて巨大看板、メトロ全線中吊り掲出をはかり、ホームページでも「結末当てクイズ」を展開しました。また、11月には開局50周年記念ドキュメンタリー「天のゆりかご」の記者向け試写会を行いました。

放送業界を取り巻く厳しい市況の影響で、セールス形態や番組内容・番組尺の変更など編成上の急な変更が多発していますが、編成部では放送事故が起きないように、また、当社の営業的な利益・制作権の確保、コンプライアンス、エリアの視聴者の不利益にならないことなどを念頭に、フジテレビはじめ系列との編成・ネットワーク調整を日々行っています。特に、年末年始については、イレギュラーな編成調整はもとより、元旦のローカル帯でフジテレビと手を組んで、生放送で今年一年を彩ったテレビで活躍した芸人を表彰する「お笑い大賞2009」の編成などにもトライアルを行っています。

##### 2) 制作部について

10月新番組ではネット・ドラマ枠を引き続き担当し、「チーム・バチスタの栄光」(火曜22時)の制作をメディアミックス・ジャパンに委託(放送権譲渡契約)し、当社はプロデューサー1名、アシスタントプロデューサー1名が参画しました。

このドラマは現代の医療が抱える問題を題材にしたベストセラーを原作とする医療サスペンスで、このクールに放送された全ドラマの中でも話題作になりました。また、今年1月のネット・ドラマ「あしたの、喜多善男」が2008年度ATPドラマ部門最優秀賞を受賞しました。

日曜22時のフジテレビとの共同制作番組を10月から「サキヨミLIVE!」にリニューアルし、さらに視聴者の方に喜んでいただける情報番組を目指しています。

また、「ミュージック」(金曜深夜)から派生したイベント「Live Jack」についても2名がプロデューサーとして参画、事業部と協力し大成功に導きました。

制作部では、以上の番組制作を通して、今後とも、強力なリーダーシップで良質な番組を制作できるプロデューサー、ディレクターを育成していきます。

### 3) クロスメディア事業部について

2008年10月から1クール放送しましたドラマ「未来世紀シェイクスピア」(毎週月曜深夜放送)については、東京編成制作センター内でクロスメディア事業部と制作部から2名のプロデューサーが参画し、DVD化の作業については、本社・クロスメディア事業局ライツ事業部の担当者と連動して作業を進めました。

## (5) 報道部門の取り組み

10月に入って以降、関西地域では全国ニュース規模の大きな事件が相次いで発生し、報道現場の業務はその対応に追われる毎日となりました。また一方11月には、当社開局50周年の節目を迎え、大型の海外ドキュメンタリーなど記念番組の放送などにも精力的に携わりました。

報道現場としてはこの3ヵ月間、通常よりやや多忙な日常作業となりましたが、引き続きこれまで以上に気を引き締め、各人が放送人としての意識や倫理感を高く持ち、視聴者に対して公正で正確な報道を届けるべく、業務にあたっています。

10月から12月における番組制作活動は、まず「スーパーニュース アンカー」をはじめとした毎日のニュース番組においては、10月1日に発生した大阪なんばの個室ビデオ火災、10月21日の大阪梅田や11月16日の富田林などで続発した悪質なひき逃げ死亡事件、或いは11月4日の著名音楽家小室哲哉容疑者の大阪地検による逮捕、そして5月に発生した舞鶴女子高校生殺人事件で11月27日に家宅捜索の動きが出るなど、大きな事件・事案が頻発する中で、常にその公正性と正確性を担保することを第一義として、細かな目配りを怠らず、日常の報道活動を行いました。

また企画取材としては、特に「スーパーニュース アンカー」において、混迷する政治状況の中で顕在化しつつある、地方の社会的矛盾や格差問題を、医療福祉や農業、地方自治体の財政難や中小企業の窮状といった多角的な視点から継続して取り上げていきました。

一方、単発番組では、11月16日に当社開局50周年記念番組として、海外取材ドキュメンタリー「天のゆりかご～世界の屋根に暮らす家族の物語～」を全国ネット放送しました。

この作品は、中国の新疆ウイグル自治区、標高4000メートルのパミール高原に暮らすタジク族の生活をほぼ1年にわたって長期取材したもので、その厳しい自然と、その中で紡ぎだされる家族の情愛を、貴重な映像を通して視聴者にお届けしました。なお、このタジク族の珍しい風習などの映像は11月11日から13日の「スーパーニュース

アンカー」においても別の視点から紹介しました。

また11月17日から21日の5日間にわたっては連日、当社報道局が開局以来保存している貴重な映像アーカイブ素材をベースとした30分番組シリーズ「映像と証言で綴る昭和の記録」を放送し、現代日本がここまでのどってきた様々な歩みを、地元関西に密着した社会的視線でまとめ、視聴者に提示しました。

さて一方この一年の総括という観点から、関西エリアの新聞やテレビなどマスメディアにおける年間の報道撮影活動を顕彰する、関西写真記者協会の2008年度協会賞テレビ・ニュース映画スポーツ部門で、3月5日に「スーパーニュース アンカー」の番組内企画として放映した「卓球少女 萌ちゃんの巣立ち」を撮影したカメラマン（当社グループ会社・株式会社ウエストワン所属）が金賞を受賞しました。

この企画は、生まれつき音が聞こえない少女が卓球を通じて成長していく経過を2005年から継続取材している中で、今春高校を卒業し、故郷の舞鶴から東京の大学へと旅立つ姿を描いたもので、取材スタッフと被取材者との間にしっかりとした信頼関係を長年にわたり構築できたことが、この結果につながりました。

ところで、社会的使命を持った報道機関として、的確な気象情報の提供・発信は極めて重要な要因ですが、以前より調整に入っていました「土砂災害警戒情報」「記録的短時間大雨情報」「竜巻注意情報」の各異常気象情報表示システムについて、10月22日から新たに実施導入しました。

コンプライアンス担当者を通じて、報道・スポーツ現場の社員・外部スタッフに対するコンプライアンス関連の情報提供、及び情報開示を目的としてメール配信していました「コンプライアンス便り」は、「編集長デスクメモ」というかたちに引き継がれ、ほぼ週1回のペースで引き続き継続して届けられており、現場記者やカメラマン、編集部のみならず、管理職、デスクを含めた全体の問題意識共有、倫理意識向上等に有効に機能しています。

これまで同様ここでは、様々な案件に関して注意喚起や、判断基準の提示を行っていますが、10月～12月には特に、2009年の裁判員制度施行を前に報道のあり方が注視される中、舞鶴女子高校生殺人事件の捜査展開などの事例から、例えば犯人視報道をしないなどといった報道現場での具体的留意点について、改めて再確認しました。

## （6）スポーツ部門の取り組み

2008年10月～12月もスポーツ局では、引き続き放送の社会的責任をさらに一層意識して、「番組で失った信頼は番組でとり戻す」という信念の下、より良質でより視聴者の方々に楽しんでいただける番組制作に精励しています。

以下にこの期間の状況などを列記します。

- ・ 10月11日（土）、12日（日）

プロ野球クライマックスシリーズ パ・リーグの第1ステージ「オリックスー日本

ハム」戦は中継権の獲得に努力した結果、2試合とも放送をすることが出来ました。

- ・ 11月9日（日）は北京五輪で話題沸騰した女子ソフトボールの日本リーグ決勝戦の放送権を得ることが出来、録画中継を行いました。対戦はルネサス高崎と豊田自動織機。ルネサス高崎には北京五輪での金メダルの立役者・上野由岐子投手が所属しており、北京五輪の他、国内3大会優勝（全日本総合、国体、日本リーグ）を果たせるかどうかと、大いに見る人の興味をひくその最後の試合を放送することが出来ました。またこの試合は上野投手のノーヒット・ノーランという大記録が出るという幸運にも恵まれ、視聴者の方々にその瞬間をしっかりと伝えることが出来たのではないかと思います。
- ・ 11月16日（日）は当社開局50周年のタイミングを機に、関西のプロ野球を中心に、当社がこれまで収録した50年の名シーンの映像をまとめて放送。24時35分からの深夜帯にもかかわらず、視聴率5.1%、占拠率29.9%をマークし、スポーツファンの視聴者の方々に意義ある番組を放送できたのではないかと思います。
- ・ 11月24日（月）には従来から放送権のある「神戸全日本女子ハーフマラソン」を録画中継しました。このレースでは本体のハーフマラソンではないので、映像には出ませんが、10キロの部にゲストランナーとして野口みずき選手が飛び入り参加し、北京五輪欠場後の初の公の場への登場となり、話題を提供したレースでした。
- ・ 11月22日、23日には全社をあげての開局50周年イベント「カンテーレ感謝祭」にも制作技術局の協力を得てスポーツ局として参加し、スピードガンを使ってどれだけスピードボールを投げられるかというコンテストを実施。来場の方々に大いに楽しんでいただきました。
- ・ また「ドリーム競馬」など毎週のレギュラー番組には普段の感覚にマヒすることなく常により良い番組にするため、制作上のチェックをより一層厳しく追求しています。
- ・ 2009年1月に放送予定の当社開局50周年記念単発ネット番組をスポーツ局も担当します。11月に米国を中心にしたロケ取材を無事終了し、古田敦也氏が有名なプロ野球選手やスポーツメーカー企業の現状他をレポートする予定です。

以上のように、より良質でより親しみを感じてもらえるように、またこれまでテレビになじみの薄かった種目にもスポットを当てて、より広い種目のスポーツを視聴者の方々に紹介していこうとしています。

もちろん番組制作のチェック体制もこれまでと同様にさらなる徹底も図っています。部員一人ひとりの自覚、意識が大切であるとの認識の下、毎週1回のデスク会ではプロデューサーや管理職が意見、情報の交換を行い番組制作の進行状況などを説明し、問題

点がないかどうかのチェックとさらなる問題意識のレベルアップを目指しています。さらにロケ現場にはディレクターだけでなく、極力プロデューサーが立ち会うようにしてチェック、またデータや写真の著作権問題関連のチェックをより一層細かく行えるようにしています。

#### (7) CS放送等、クロスメディア部門の取り組み

「CS放送等の活用」という再生委員会の提言を受けて前年よりスタートした「DREAM COMES TRUE企画」については、「GO on」（学生自らが企画・制作するバラエティ番組）のスタッフが自分の番組に密着、ロケ取材した「ドキュメンタリー 学生たちの挑戦」を11月に関西テレビ☆京都チャンネルとKBS京都で放送しました。

なお、この「DREAM COMES TRUE企画」から生まれた、鉄道アイドルの旅番組「電車女」はシリーズ化され、DVDも発売中です。

「電車女☆夏の旅」 土佐くろしお鉄道 10月放送

「電車女☆秋の旅」 一畑電車 12月放送

大阪・南港ATCホールで、11月28日―30日の3日間開催された「ケーブルテレビショーIN KANSAI」にフジテレビ、日本映画衛星放送と共同出展。約46,000人の来場者に京チャン着ぐるみを動員して、PR活動を行いました。

単発番組として、書家 俵越山が全国を歩き、出会った人々に様々な「ありがとう」を語ってもらい、それを一冊の本にまとめる過程に同行する企画、「千の感謝」を1月に放送予定。京都府の協力を得て、京都府与謝郡伊根町周辺で収録しました。

#### (8) 技術部門の取り組み

10月18日に兵庫県おもちや王国で開催された「イベント はたらくくるま」にSNG-II型中継車を出展しました。今回は単なる展示ではなく一般客が車内に入ることができるようにして、中継車の内部を公開しました。また電源の入ったカメラをつないで、一般客、特に子供たちにカメラマンの疑似体験をしてもらいました。なおこのイベントは、もともと当社グループ会社からの依頼案件で、数年前より毎年の中継車を出展しています。

12月1日にメディアリテラシー事業として継続して行われている「立命館大学との共同研究」に映像グループ、編集グループよりスタッフを派遣し、カメラ撮影業務、番組編集業務についての講義およびディスカッションをおこないました。

12月8日「大阪国際女子マラソン 技術本部」を開設しました。1月25日の本番に向け中継技術システムの構築を行うとともに、社外団体・官公庁との折衝をおこないコンプライアンスを遵守したうえで高品位の番組中継をめざしています。

日常的な業務の中で、特に一般の人々と接触する機会が多い中継作業では、社会規範



を遵守しトラブルをおこさず、言動に十分留意するよう指示しております。

一般視聴者の社内見学の際には、ニュースが放送されるまでの流れを担当者がわかりやすく説明し、サブ内のモニターに映し出される映像を見ていただきながら、スタジオではクロマキー背景の前に立ち、映像が合成される仕組みを実体験で経験し理解を深めてもらいます。

視聴者のみなさんに安定した放送を届けるため、生駒親局（送信所）について確実に保守管理を行い、今年も放送無事故を達成しています。テレビ放送は瞬断も許されないため24時間体制で事故対応に望み、これからも放送無事故を続けていきます。

デジタル放送に関しましては、不況のためデジタルテレビの普及率の伸びが懸念される中、11月22日・23日の両日、大阪南港で開催された当社の開局50周年の記念イベントにおいて、デジタル放送受信相談コーナー、デジタル放送周知度アンケート、5.1サラウンド音声体感コーナーを実施し、その周知広報に努めました。アンケートでは総務省アンケートとほぼ同じ結果を得、デジタル放送の認知度を実感を持って感じることができました。5.1サラウンド音声体感コーナーではデジタル放送の特質である高音質音声放送を視聴者の皆様に体感していただき、その質の高さをアピールできたと思います。

また、コンプライアンスの一環として、中継局の土地の賃借契約の見直しも行っています。アナログ中継局時代に結ばれた契約書は20年以上たっており、現在の時世とは合わなくなっているものがあります。そういったものをデジタル中継局の置局に際して、旧契約書をもとに地主と話し合いを行い、現状に即した契約に更新しています。

国民生活の安全確保のため、気象情報やニュース速報を放送時間に関係なく送出できるシステムと運用フローを確立しており、自然災害による被害を低減させるため、緊急地震速報の自動化や従来の台風情報に加え、記録的短時間大雨情報や竜巻注意情報、土砂災害警戒情報等をいち早く、視聴者の皆さまにご提供できるよう対応しています。

放送局の心臓部であるマスター室送出設備においては、2009年7月切り替えを目標に、デジタル統合マスターへの更新作業を進めており、HD番組バンクなどフルHD対応の放送システム導入を計画しています。マスターシステム設置場所の導入準備工事も始まり、新放送システムの実運用を想定した放送体制作りも開始しています。デジタル統合マスター導入により、放送の高品質と緊急特番等の柔軟編成への速やかな対応が可能となり、視聴者の方々へのサービス向上を目指していきます。

## （9）営業部門の取り組み

9月中旬に起きた米リーマン・ブラザーズの破綻に始まる米国の金融危機の影響が世界的な景気後退へと波及しています。また、在阪民放各社の中間決算が軒並み赤字決算となる状況をふまえ、当社でも下方修正された放送収入予算を全営業局員挙げて達成すべく取り組んだ第3四半期でした。

いまだかつて経験したことのない厳しい経済環境の中、本社営業局(名古屋支局含む)と東京支社は、開局50周年関連番組やイベントの協賛セールスを精力的に行いました。全国ネットの番組では、3つの開局50周年記念番組をセールし、50周年にふさわしい結果を残すことができました。

現在は、年末年始特番や「大阪国際女子マラソン」、そして今年度からゴールデンタイムでも放送が予定されている「R-1グランプリ」のセールスに精力的に取り組んでいます。スポットにおいても第3四半期の収入予算必達に全局員で取り組んでいます。

また関西ローカル番組として「関西テレビ開局50周年記念番組 感謝!感激!カンテーレ! 50周年だよ おかげさまスペシャル」をセールスしました。

事業イベントでは、東京で先行実施されていたお笑いの超ビッグイベント「LIVE STAND」の大阪公演を大口協賛スポンサーのご協力で実現、2万5千人の観客を動員し、地元の文化に貢献することができました。また10月にはドラッグストア等にご協賛を頂き、小学生のお子さんと保護者を対象に科学の面白さを体験してもらう無料イベントを実施し、150組300名様にご参加いただきました。

このような取り組みの一方で、会社の根幹を支える放送収入は極めて深刻な課題に直面しています。米国の金融危機が日本企業へも波及し、自動車関連をはじめとする大手クライアントの経営に大きく影響しています。

また企業のM&Aの増加によるクライアント数の減少、CM供給量とその需要に対する過剰感、各局との価格競争の激化による価格の下落、その結果、放送収入が下がるという悪循環が続いています。

これまで放送メディアが培ってきた国民の知る権利への貢献と放送の信頼性を担保しつつ、どう変革して生き残っていくかが問われています。また、放送確認書の所管を営業局以外の部局に置くなど、企業の透明性をより一層高めていく取り組みも必要だと感じています。

民放連への完全復帰は大きな一歩ではありますが、これを機に今一度、放送人として各人の意識を高め、会社組織と全社員を挙げて放送収入をしっかりと支えるという更なる意識の醸成が必要と認識しております。

#### (10) イベント開催部門の取り組み

当社は10月から12月の間にも演劇、コンサート、マジック等様々なイベントを展開してきました。その中でも、11月には当社深夜の音楽番組「ミュージック」と連動して生まれた音楽ライブイベント「Live Jack Special」を、開局50周年記念のスペシャルバージョンとして、これまでの「なんばハッチ」から場所を大阪城ホールに移して開催いたしました。

番組にゆかりのある関西出身の大物アーティストが集合、ここでしか見ることのできないオンリーワンライブに会場は大いに盛り上がり、イベントは大成功に終わりました。

また、11月22日、23日にはインテックス大阪で史上最大のお笑いフェスティバル「LIVE STAND '08 大阪」を開催しました。2日間で2万5千人の皆様は大いに笑いを堪能していただきました。

また両日、インテックス大阪で同時開催されました「カンテーレ感謝際」にも積極的に参加しました。多くの方に来場していただき、十分に楽しんでいただけたと思います。今後も新しいイベントに果敢に挑戦していきたいと思います。

一方、これまで自主制作等の大型イベント以外のリスク分担興行催事について、契約の締結が義務化されていっていませんでしたが、未収、催事中止等のトラブルを回避するため、全てのリスク分担イベントで契約書を締結することにしました。

この締結には、各方面との調整に少し時間を要しましたが、11月より運用を開始しました。

### (11) 番組審議会の活動

放送法を典拠とする放送番組審議機関として、「関西テレビ放送番組審議会」の強化について、審議会のご審議事項として2007年2月より継続的にご審議いただきました。とりわけ2007年5月10日開催の第486回番組審議会においては「番組審議会のあり方」が主要議題となりました。

そのご議論を経て頂戴した提言から第487回（7月12日）、第488回（9月13日）番組審議会において具体化しました以下の改善点を引き続き実践しております。

#### \* 討論素材の選定

- ・ 審議会（委員長）と審議会事務局が合同で行なう

#### \* 討議を活性化する

- ・ オブザーバー（制作担当者）をプロデューサー以外にも拡充する
- ・ オブザーバーと委員との質疑応答を随時に行う（従来は議事の最後）
- ・ 担当責任役員も当事者性にに基づき発言する
- ・ 委員の自由発言（当月議題以外でも）を拡充する

#### \* 諸情報の積極的開示と共有

- ・ 審議内容を社内外の従前以上に積極的に開示する
- ・ 審議内容への対応諸施策を次回審議会で報告する
- ・ 視聴者の苦情・抗議、対応状況をより詳細に報告する

今後も引続き、上記諸点に特に留意しつつ、より深い内容の審議が実現される場としての番組審議会及び事務局機能の強化に努めております。

なお、2008年10～12月期の番組審議会審議対象番組は以下の通りです。（審議

内容詳細は「審議会便り」<sup>4</sup>をご参照ください。）

- ・第499回番組審議会（2008年10月9日）

福井社長より当社の民放連会員活動停止解除への見通しについて説明。審議対象番組は「ぶったま！」（9月27日放送）

- ・第500回番組審議会（2008年11月13日）

当社の番組審議会は、昭和34年6月8日に第一回を開催して以来、開局50年目の11月に第500回を迎えた。冒頭で福井社長が当社の民放連資格停止解除について報告するとともに、委員への謝辞を述べた。審議対象番組は関西テレビ放送開局50周年記念ドラマ「ありがとう、オカン」（10月7日放送）

- ・第501回番組審議会（2008年12月11日）

2008－9年末年始番組について、別本取締役編成制作局長が説明。審議対象番組はドキュメンタリー「天のゆりかご」（11月16日放送）

---

<sup>4</sup> <http://www.ktv.co.jp/ktv/info/shingi/>

## 第5 視聴者の方々とつながりやメディアリテラシー活動

### (1) 活性化委員会の開催・審議状況

#### 4-1 活性化委員会の開催・審議状況について

「関西テレビ活性化委員会」は、2007年3月に外部調査委員会から設置を提言され、同年7月に正式に設置されたものです。「外部の有識者からなる委員会で、第三者の視点で、番組だけにとどまらず、経営全般に至るまで、当社に対して、広く論評、注意喚起、提言を行なう組織」として位置づけられ、浅田敏一委員長以下6名の委員で、これまでに臨時開催を含めて7回の委員会が開かれました。

10月の第7回の委員会では、7月からの3ヵ月間の活動をまとめた「コンプライアンス・CSRレポート(2008年7月～9月)」<sup>5</sup>が社長より提出されました。

レポートには、社内全ての部署から寄せられた、これまでの取り組み等が様々な角度から記されている他、「メディアリテラシー活動」や「コンプライアンス態勢の構築」そして「経営基盤の整備」などの項目について詳細に記載されています。

その報告が社長より行われ、委員会では、このレポートの内容について審議を行いました。

そしてレポートについて、11月14日に以下の見解を公表しました。

関西テレビ放送株式会社(以下「関西テレビ」という)より2008年10月17日付で視聴者の皆様に公表された「コンプライアンス・CSRレポート(2008年7月～9月)」(以下「レポート」という)について、当委員会はレポートに記載されている内容を仔細に検討した。

前回の見解公表(2008年7月31日付)からの間に、関西テレビは、8月に環境自主行動計画を策定し、環境負荷の少ない社会の実現に向けて努力していく姿勢を打ち出すなど、CSR活動により注力していることが窺える。

コンプライアンス態勢の構築として、リスクマネジメントに関して、9月からは外部の専門家を交えてリスク評価を実施し、リスク管理台帳を完成させる作業を始めているとのことであるが、この取り組みは、企業活動において非常に重要な事項であると認識している。

メディアリテラシー活動についても、様々な場所や機会を用いて、地道に行っていると見受けられるが、学校の放送部活動の振興などにかかわり、放送の裾野を広げることは、放送の将来の発展にとって極めて重要である。関西テレビには、継続的な活動を期待する。

また、編成・制作部門を中心とした機構改革後も「S-コンセプト」など番組制作に

<sup>5</sup> [http://www.ktv.co.jp/ktv/info/kasseika/PDF/081017\\_cpl.pdf](http://www.ktv.co.jp/ktv/info/kasseika/PDF/081017_cpl.pdf)

真摯に取り組む姿勢が見られていることは、評価されるものである。昨今の厳しい経営環境の中にあっても、視聴率偏重に陥ることのない番組作りを期待している。

今後は、得意な番組ジャンルを確立し「〇〇なら関テレ」と言われるようなブランド構築を検討されることも考慮されたい。

関西テレビは10月27日の(社)日本民間放送連盟の理事会において、会員活動停止の解除が認められ、完全復帰となったが、今後も全社で弛まない努力を続け、民間放送の模範となるべく、これまでの経験を活かされることを希望する。

なお、当委員会は、3カ月の間に視聴者から寄せられた抗議・苦情についても報告を受け、これを検討したが、重大な人権侵害に該当するものは見受けられない。

最後に委員会では、来年1月の委員会開催時に、本年末までのレポートが公表されることと認識しており、その中で再び報告をされたい。

以 上

この見解に対して、当社では以下のコメントを公表しました。

11月14日、関西テレビ活性化委員会より、2008年10月17日付当社「コンプライアンス・CSRレポート(2008年7月～9月)」に対する見解を頂戴致しました。これは10月17日の委員会でのご審議を経てお纏め頂いたものです。

当社の現在の取り組みについて、活性化委員会の方々には、これまでの再発防止や再生への諸施策に加え、環境自主行動計画の策定やメディアリテラシー活動などにつきまして、基本的にご評価を頂いたものと認識しております。

また、委員会見解において言及されておりますように、厳しい経営環境の中でも、視聴率偏重に陥らず、当社の新たなブランド構築に向け、役員、社員一同が今後とも鋭意努力を続けてまいります。メディアリテラシー活動につきましても弛まず継続してまいります。

当社は(社)日本民間放送連盟におきまして、会員活動停止の状態が続いておりましたが、去る10月27日に会員社のご賛同をいただき、停止が解除されました。当社では、これを新たなスタートと受け止め、今後とも全社を挙げて努力を続けて参ります。

今回のレポートも前回同様、企業としての関西テレビが、視聴者の皆様に向けて発信して、つながりを作り上げるものと捉えており、開局50周年の節目を迎えたこれからも、定期的にこのような活動報告を続ける所存です。

以 上

活性化委員会が設置され早くも1年半が経過し、これまでも様々なご意見を頂戴しましたが、今後も様々な知識・経験に基づく、第三者の視点から当社の番組制作、放送を中心とした事業活動に忌憚の無いご意見をいただく場として、活動していただい

ております。

## (2) 視聴者対応状況

10月から12月までの視聴者対応件数（電話・メール・郵便）は以下の通りです。

10月	総件数5984件（問合せ3538件 苦情890件 要望827件 感想327件 情報提供182件 その他220件）
11月	総件数5889件（問合せ3653件 苦情938件 要望595件 感想303件 情報提供162件 その他238件）
12月	総件数4824件（問合せ2996件 苦情637件 要望599件 感想270件 情報提供156件 その他166件）

10月の主な内容ですが、9月16日に放送された単発ドラマ「リアル・クローズ」に10月に入ってから続編放送予定の問合せが68件ありました。10月4日「ぶったま！」に太田房江前大阪府知事が出演したことに対する苦情が31件ありました。また、10月7日「関西テレビ放送開局50周年記念ドラマ ありがとう、オカン」に60件の感想・再放送希望・DVDの発売希望を頂きました。10月15日「とくダネ」“麗しのニッポン味覚遺産 さんま一筋46年「絶品さんまの開き」”で紹介された「さんまや 中井水産」の電話番号の問合せが126件ありました。

11月の主な内容は、11月1日「JリーグヤマザキナビスコカップFINAL 大分トリニータVS清水エスパルス」の放送が延長となり、「松本清張スペシャル殺人行おくのほそ道（再）」が休止になったため、問合せや苦情が58件ありました。11月9日と16日に「こちら葛飾区亀有公園前派出所」のスペシャル版が放送され、「ワンピース」が2週続けて休止となったことに対する問合せが189件ありました。11月17日～22日の深夜に放送された「懐かしのドラマ de カンテレー 仮面の忍者赤影 金目教篇（再）」には、放送日時での問合せや続編の再放送希望が74件ありました。11月22日、23日に放送された生ワイド番組「関西テレビ開局50周年記念番組 感謝！感激！カンテレー！50年だよ おかげさまスペシャル」ではプレゼントの応募方法、放送時間などの問合せが多く、2日間で242件にのぼりました。11月23日「ドリーム競馬」“よしもと競馬名人SP”でアナログ放送の実況音の一部欠落したことに対する苦情が45件、11月24日「ネプリーグ芸能界超常識王決定戦SP」が短縮版で放送されたことに対する苦情が34件ありました。

12月の主な内容は、12月5日に猪名川サテライト局で、落雷による停波が発生し、問合せが25件ありました。12月10日「スーパーニュースアンカー」内で男性キャスターが政治家たちを「ぼんくら」と呼んだことで苦情が12件ありました。「よ〜いドン！」12月12日“発見！関西ワーカー”で紹介された高級ごま油に問合せが92件、12月15日“となりの人間国宝さん”で紹介されたソースに問合せが116件ありました。12月15日放送「HEY！HEY！HEY！SP」が当社は短縮版の放送

だったため、苦情と2時間版の放送希望など191件ありました。12月20日放送「2008F1グランプリ総集編」に放送日時の間合せが64件ありました。

番組専属「視聴者対応スタッフ」の対応件数については、以下の通りです。

6月30日に始まった生放送番組「よ〜いドン！」(月～金 午前9時55分～午前11時10分)は、番組開始から累計で106件です。

夕方帯の報道番組「スーパーニュースアンカー」「FNNスーパーニュースアンカー」の両番組合わせて、3月開始以来、約10ヵ月で累計は608件です。

### (3) カンテレ感謝祭の開催について

「カンテレ感謝祭」は、当社の開局からの50年を支えていただいた視聴者のみなさんに感謝の気持ちを伝えたいという社員からの提案で企画されたイベントです。1年前の企画立案の段階から実施まで、体制づくりなどをはじめとする幾多の困難がありましたが、何としても開催したいという社員の熱意で実現できました。コンセプトは「感謝の気持ち」と「全社員参加」で、手作りの心のこもったイベントにしようということでした。

この催しは、開局記念日行事が集中するスペシャルウィークの11月22日(土)、23日(日)の2日にわたり、大阪市住之江区南港の見本市会場インテックス大阪で、同じ50周年記念イベントとして開催されました吉本興業タレントによるエンターテインメント「ライブスタンド」と同時に開催され、入場者は2日間で延べ4万人を数え大成功に終わりました。

会場では、当社開局からの50年間の名物番組が一覧できる歴史コーナーや古いカメラ機材の展示、番組ブースでは、看板番組「さんまのまんま」の本物のセットが設置されたほか、各番組ブースでは、担当者がそれぞれ企画したゲーム感覚のおもしろい出し物などがいくつも展開されました。

また体験参加型ブースでは、子供たちがニュースキャスターやカメラマン、スイッチャーを担当するなどして番組制作現場を実際に体験したほか、スピードガンコンテストや超スロー再生による映像など、スポーツ番組の醍醐味を実感しました。

このほか最新の映像技術を使ったバーチャルスタジオや、CGを使った3次元の不思議なメディアアートの世界など工夫を凝らしたブースもあり、放送局の特長を生かした楽しいイベントになり終日賑わいました。

一方、会場に特設された「ハチエモンステージ」では、ニュースキャスターやアナウンサーによるトークショー、クイズ「カンテレ検定」など楽しいプログラムが展開され、当社のアナウンサーが交代で司会を務め、ステージを盛り上げました。

感謝祭終了後、メールで寄せられた社員の感想には、「直接視聴者のみなさんとお会いし話ができ楽しかった。いい機会だった」といった内容が多く寄せられました。電話やメールではなく、お互いの顔が見える距離で、視聴者と交流し意見交換することの



大切さを皆が改めて感じました。最終日のステージでのフィナーレでは「これからの50年も関西テレビをよろしく」という社員からの熱いメッセージも紹介されました。

会場でイベントに参加した社員は、2日間でのべ340名、前日の準備を加えると、400名を数えました。当日の本社での業務や記念特番のスタッフ数を考慮すると、この数は、全社員が一丸となって成し遂げたという評価ができます。

#### (4) 「月刊カンテレ批評」と「テレビの木」について

自社検証番組「月刊カンテレ批評」(月1回、日曜午前6時30分から放送)では、番組冒頭で当社からの視聴者の皆様に対するお知らせを放送しております。

10月は、当社がこの3ヵ月間の様々な活動をまとめた「コンプライアンス・CSRレポート」を発表し、活性化委員会に報告を行ったことをお伝えしました。

11月は、当社が1年6ヵ月ぶりに民放連に完全復帰したことについての報告と「関西テレビ活性化委員会」が当社の「コンプライアンス・CSRレポート」に対しての見解を発表したことをお伝えしました。

12月は、当社の開局50周年を記念して11月22日と23日に行われた入場無料の「カンテレ感謝祭」について報告を行いました。さらに番組制作現場の声をお伝えするコーナーでは、開局50周年記念番組「ありがとう!オカン」「天のゆりかご」、そして「映像と証言で綴る昭和」を取り扱いました。

そのほか当番組では毎回視聴者の皆様からのご意見や当社の回答、番組審議会の内容等を放送しております

番組「テレビの木」(月1回、日曜午前6時30分から放送)では、メディアリテラシーをテーマのひとつに放送しております。10月は帯番組をテーマに放送しました。この夏から放送を開始した「よ〜いドン!」のチーフディレクターに密着し、いかにお茶の間で楽しめる番組となれるのか、また映像の編集方法やロケでの約束事などこの番組の持つこだわりを紹介しました。

テレビコラムでは『テレビの「押しつけ」に注意!』というテーマで、奈良産業大学教授 亘英太郎氏から最近のテレビは演出過剰であり、笑いとか感動を視聴者の判断に任すべきところをメディアの側が押しつけているケースが増えているというお話を放送しました。

11月は当社開局から50年の節目を迎えたことを記念した放送を行いました。放送技術の進歩を紹介しながら、テレビがこの50年の間にいかに市民権を得、放送文化を育んできたかをVTRで振り返り、これからのテレビはどうあるべきなのかをテーマに、作家の若一光司さん、そして同じく作家の玉岡かおるさんのお二人と当社社長の福井澄郎とで討論を行いました。

12月は競馬中継を紹介しました。重賞レースという3分間のドラマを如何に正確にそしてドラマティックに映像化して視聴者に届けるか。実況アナウンサーからディレク

ター、そして併走車を操るドライバーまで、その一瞬に懸ける彼らの準備から密着し、競馬中継の制作現場を紹介しました。

テレビコラムでは大阪学院大学の国定浩一教授から「労働の対価としてのお金の尊さをテレビはもっと大切にすべき」というテーマでお話をいただきました。

#### (5) メディアリテラシー活動について

当社では、7月に総務局内にメディアリテラシー推進部を開設し、また担当の専任社員を配置して、既に活動を進めている社内横断組織「こころでつながるプロジェクトチーム」と連携しながらメディアリテラシー活動を推進しています。また同時に活動内容は、当社ホームページ内にプロジェクトのサイトを設け、視聴者の皆さんをはじめ社会一般に広く公開しています。

以下に前回のレポート以後の取り組みを記載いたします。

- ・ 8月22日 「テレビ局へ行こう！高校生のための課外授業」（営業局）  
大学と協賛して多彩なゲスト（タレントや気象予報士、アナウンサー）を交えてテレビ局の仕事を紹介し、また高校生の進路や悩みについても相談をうけるなどユニークなイベントを行いました。
- ・ 8月31日 「関西テレビアナウンサー 朗読会2008あなたに聞かせたい」（アナウンス部）  
わかぎえふさんの演出による朗読会を開催、150組300人が参加し大変好評でした。カメラ画面を通じてではなく、人々に直接話し掛けるこのような機会はアナウンサーにとっても貴重で、アナウンスの力を高める研修としても有益なものとなりました。
- ・ 9月14日 市民メディア全国交流集会「京都メディアフス」に「テレビの木」担当プロデューサーがパネラー参加。  
市民メディアとテレビ、新聞などマスコミとの関係が議論され、情報を市民のものにするためにお互いの特性を生かしながら緊張感をもった関係をとったテーマでパネルディスカッションが行われました。
- ・ 9月～10月 京都造形大学の学生が制作する、京都粟田神社の「ねぶた祭り・180年ぶりの復活」ドキュメントを制作指導  
大学から撮影技術の指導依頼があり、ベテランカメラマンを派遣し、数回撮影現場に同行してドキュメント制作を援助しました。作品は12月中に学生によって仕上がりました。
- ・ 10月10日 大阪府立東住吉高校芸能文化科の生徒が会社見学。  
「よ～いドン」の生放送のスタジオ、報道スタジオなど見学しました。その後、担当のプロデューサーや制作技術部長を交えて、番組の企画内容やデジタル技術について

質疑応答を行いました。番組の制作現場で映像を切り替えるスイッチャーの役割が生徒らの興味を引いていたようです。

- ・ 10月18日 「親子サイエンスフェア」開催（営業局）

この項目は、営業部門の取り組みとして前述しておりますが、当社が主催し「科学の不思議を親子で学ぼう」「サイエンスショー」など楽しい実験を通じて科学する喜びを体験してもらおうといった企画で、約300人が集まりました。

- ・ 総合的なメディアリテラシー活動の場として位置付けた「カンテーレ感謝祭」開催状況については、前述のとおりです。

- ・ 立命館大学との共同研究（2008年4月から）

12月は撮影と編集の現場担当者が講義を行いました。さらに、共同研究の最後として「放送倫理」「コンプライアンス」をテーマに取り上げ、2月の研究発表を迎えることとなります。

上記のこれらの活動は、すでに来期に向けての継続についての検討、協議を進めており、当社では、今後も積極的にメディアリテラシー活動を継続して参ります。

## 第6 コンプライアンス態勢の構築

---

### (1) リスクマネジメント態勢等の確立について

当社では2008年2月の五輪番組情報配信問題を受けて、当社は当該部署の業務フローを見直すだけでは不十分と考え、3月26日の取締役会において、「リスクマネジメント態勢の確立」を盛り込んだ内部統制決議の修正を決議しました。当社ではこれに基づいて、リスクの特定、評価、対処、PDCAサイクルの整備といった一連のリスクマネジメントシステムの確立に取り組んでおります。

当社におけるリスクマネジメント態勢は、コンプライアンス委員会の下部組織として各局のライン局長を中心に組織されたリスクマネジメント会議がリスクマネジメントを統括し、コンプライアンス責任者（ライン部長）を各部におけるリスク管理者として位置づけるというものです。また、番組内容に関するリスクにつきましては、同じくコンプライアンス委員会の下部組織である放送倫理部会が統括しております。

まず4月にコンサルティング会社による、リスクマネジメント会議メンバー・コンプライアンス責任者を対象とした、リスクマネジャーとしての局長・部長の役割に関する研修を実施しました。その後、各部署からのリスク管理台帳の提出を踏まえ、9月からは外部の専門家を交えて、先に各部で作成した「リスク管理台帳」の記載を分析し、リスク分類を検討しました。次いで「リスク管理台帳」に基づき、2008年11月10日（月）から12月1日（月）にかけ、外部専門家を交えてライン部長50名からの聞き取りを行いました。現在は、聞き取り結果を検討しつつ「業務リスク」「番組リスク」への分類を行うとともに「経営リスク」の抽出作業を行っております。今後は年度内にリスクマップを作成し、組織体制や具体的なPDCAサイクルのありようについて検討する予定です。

一方、リスクマネジメント会議においては、新型インフルエンザ対策についても協議しております。

さらに、リスクマネジメント態勢の確立の一環として、2005年に定めた「情報セキュリティポリシー」のリニューアル等、情報セキュリティー態勢の再構築も行っております。

### (2) 企業内弁護士の採用について

当社は法務・コンプライアンス部門の充実のため、弁護士資格を有する契約社員を採用することを2007年に決定し、7月から募集を開始いたしました。当初、対象を「新60期司法修習生」と限定していたこともあり、対象となった修習生の就職期との兼ね合いもあって反応が芳しくなかったため、10月に「新60期、61期の司法修習生」と対象を広げて募集しました結果、8人の応募があり、順次面接を実施するなどして選

考を行い、1名の採用を内定しました。

内定者は、その後司法修習を裁判所などで続け、2008年12月に司法修習の最終試験に合格、2009年1月の大阪弁護士会への弁護士登録に伴い、当社のコンプライアンス推進部において法務担当業務にあたることとなります。

この企業内弁護士の採用は、NHKやキー局、あるいは在名局ではこれまでも実績がありますが、在阪準キー局としては初めてです。今後は契約チェックや標準契約書の作成、下請法遵守のための活動、顧問弁護士と社員を結ぶ役割などの法務業務に従事するほか、広くコンプライアンス関連業務において活躍を期待しています。

## 第7 経営機構について

---

### (1) 機構改革後半年間の状況について

当社では、2008年6月開催の株主総会・取締役会で、「取締役会のスリム化」、「経営と業務執行との密接な連携」、「緻密な戦略に基づく経営」を一層推し進めるため、経営体制への改善と見直しを行い、経営陣を一新したことはすでに報告したとおりです。

新たに就任した8名の常勤取締役は、全員が同じスタンスで密接な連携をとりつつ、立体的かつ多面的な視線をも確保して経営と業務執行に当たり、緻密な戦略のもと、若返りによるフットワークの良さを利して、さらに迅速に業務を執行しております。

その結果、迅速な判断のもと、施策を決定し、社屋の購入、民放連への完全復帰、不採算部門の見直しなどに対して着実な実績をあげております。

また「番組で失った信頼を番組で取り戻す」という考えに基づき、7月に行った番組編成・制作部門を中心とした組織改革においても、責任の所在や決裁権者が明確となり、3つのセンターが設置されたことによって、意思疎通や個別の部の業務管理も順調に行われ、情報交換や職場環境が整備されるとともに、組織の風通しも良くなり、番組制作環境が改善されています。

### (2) 関係会社の状況とグループ政策について

現在、当社は、番組制作会社や映像制作の技術会社など、10社の関係会社を擁しています。今後、放送事業に経営資源を集中させ、グループ会社全体の経営管理を効率的に行うために、2008年4月から連結決算を開始しました。

これに伴い2009年3月期に「連結財務諸表」を作成するにあたり、今中間期についても「連結財務諸表」を作成し、会計監査法人がチェックを行いました。

一方、2007年12月に「関係会社再編プロジェクトチーム」を設置して、経営管理に通じた幹部社員を中心として、関係会社各社の個別具体的な課題の洗い出しを行ってきました。

現在、一部を残し、ほぼ各社の分析を終え、再編方針と実際作業の工程について、各社の経営責任者と協議をしながら、検討を進めています。

また、2007年6月に解散決議を行った介護関連事業会社については、現在、清算作業中ですが、ようやく債権債務の確定に目途がつき、今後は、裁判所に対して特別清算の申し立てを行い、年度内に清算終了となる見込みです。

## 第8 企業情報の開示

---

### (1) 会見等、企業情報開示の状況

現在、当社では、企業情報の開示を放送事業者の責務として捉え、社長会見をはじめ報道リリースやホームページ等で、業績、視聴率状況、番組改編情報、再発防止策進捗状況の開示に積極的に努めています。

また、社団法人日本民間放送連盟からの会員活動停止の解除等、社会的に関心があると思われる事項の情報開示も適時に行いました。詳細は次の通りです。

#### 1) 社長定例記者会見

11月17日、社長定例記者会見を開催し、2008年度上期の業績を公表しました。また、再発防止策進捗状況や視聴率状況、それに開局50周年番組やイベントに関する説明をいたしました。

#### 2) 社団法人日本民間放送連盟理事会の決定を受けての会長・社長記者会見

10月27日、社団法人日本民間放送連盟理事会からの会員活動停止の解除の決定を受けて、会長・社長記者会見を開催いたしました。

#### 3) 記者説明会

10月17日、第7回活性化委員会が開催され、その内容についてコンプライアンス推進室長が記者説明を行いました。

#### 4) 報道リリース

10月9日、当社の社団法人日本民間放送連盟への全面復帰に関する近畿民放社長会の結論を受けて、コメントをリリースいたしました。

#### 5) ホームページでのお知らせ

11月23日、「ドリーム競馬」アナログ放送において、一部音声欠落するという不体裁がありました。同日、その事実関係と原因をホームページにて説明いたしました。

### (2) ホームページの改善と掲載実績

当社は10月22日（水）にホームページを全面リニューアルいたしました。

当社のホームページを訪れる方のほとんどが番組に関する情報を求めておられることから、番組サイト <http://ktv.jp/> を企業サイト <http://www.ktv.co.jp/> とは独立した別サイトとして構築し、相互にリンクする形としました。

当社が放送する番組に関する情報を知りたい方には番組サイトを、当社の会社概要・採用情報・各種リリース、また当社に関係する映画やイベントなどの情報を知りたい方には企業サイトをご案内しております。

ユーザーの方が目的の情報まで速やかに到達出来るようになり、個々の番組ページのアクセス数も増加しております。

また、2008年10月より12月の間において当社ホームページで開示した企業情報は以下の通りです。

- 10月 1日 (水) 2010年度採用ページ公開
- 10月10日 (金) 10月9日 (木) の「近畿民放社長会」について
- 10月17日 (金) 関西テレビ活性化委員会  
10月17日付 コンプライアンス・CSRレポート  
(2008年7月～9月)
- 10月21日 (火) 関西テレビ活性化委員会  
第7回委員会概要
- 10月27日 (月) (社) 日本民間放送連盟理事会の決定について
- 11月17日 (月) 関西テレビ活性化委員会  
11月14日付 コンプライアンス・CSRレポート  
(2008年7月～9月) に対する活性化委員会の見解  
11月17日付 活性化委員会の見解を受けて
- 11月18日 (火) 平成20年秋季社長記者会見 (11月17日)
- 11月23日 (日) 競馬中継での放送不体裁に関して
- 12月15日 (月) 2009年度 第75期 テレビモニター募集のお知らせ



## 第9 放送人倫理の確立に向けた教育及び研修等

---

### (1) 社内研修、啓発、放送倫理・コンプライアンス研修会

2007年4月から、当社の既存組織「放送倫理部会」が中心となり、外部講師を招聘し講演と意見交換を行う「放送倫理・コンプライアンス研修会」と名づけた定期的な研修を行っており、2007年度は12回開催し、各回2時間あまりに亘っての講義や活発な質疑応答が行われました。

2008年度も引続き、各界から講師をお招きしてこの研修会を開催しており、5月21日に元BPO調査役の松田士朗氏の「BPOから見たメディアの環境変化」といった講演を行なったことに続き、人事異動後の7月28と8月4日に、著作権等に関する諸問題や知識を持ってもらうために、知的財産を専門とされている弁護士を講師にお招きし、「放送メディアに関連する著作権と実務上の留意点」というテーマで研修会を行いました。

さらに、その延長線上として、12月8日に「小室事件から日本版フェアユースまで最近の著作権関連問題について」といったテーマの研修会を同じ講師で行いました。

いずれの回も参加者は、およそ50人で、業務等の都合で参加できない者のために、社内のLANシステムに音声データや講演詳細を公開して、随時内容を確認できるようにするとともに、東京支社等に向けてDVDを作成しております。

2008年度の研修会は、これまでの放送倫理意識を向上させるためだけでなく、コンプライアンス確立のため社員それぞれが必要な法律知識などを身につける場としての役割を果たしており、引続き行っていきます。

また、人事研修としましては、9月25日に7月付で管理職に昇格した社員を対象とした「新任管理職研修」を行い、リスクマネジャーとしての役割についての認識や理解を高めるとともに、リスクマネジメントの必要性、プロフェッションとしての自覚などを中心に教育を行いました。

今後も、社内における研修会や社外の研修会を通じて全社員に対し、放送人としての使命の浸透や倫理を確立していきます。

### (2) 近畿地区民放主催・放送倫理セミナーへの参画について

「発掘！あるある大事典」捏造問題が発端となり、放送界全般において、倫理が大きなテーマとなってきたことなどの状況を受け止め、毎日放送、朝日放送、読売テレビ、テレビ大阪、びわ湖放送、京都放送、サンテレビ、奈良テレビ、テレビ和歌山、及び当社の近畿民放テレビ10社は、よりよい放送のあり方を公開の場で模索討議することを目的として、2007年度より「放送倫理セミナー」を不定期に開催することとしました。

第1回、第2回の「放送倫理セミナー」は、2007年4月と11月に、前述の近畿

民放テレビ10社の主催、全日本テレビ番組製作社連盟の後援により催されました。

第1回は、主に「発掘！あるある大事典」捏造問題の外部調査委員会報告書でも指摘された、放送局と制作プロダクションのパートナーシップのあり方を中心に、在阪のいくつかの放送局、或いは制作プロダクションの各現場統括者によるパネルディスカッションなどにより、様々な問題点が多面的に討議され、当社は前記の通り主催者の一員として参加しました。

第2回は、当社が公の場で「発掘！あるある大事典」捏造問題について改めて報告し、その報告を起点に放送界に関わる諸問題を討議するという趣旨で開催されたもので、当社より編成局長が当社の再生への取り組みなどについて報告を行いました。また、放送文化論研究者のコーディネートによる「放送人のメディアリテラシー向上のために」と題したパネルディスカッションが行われ、パネリストとしてメディア産業論研究者、全国紙記者とともに、当社よりコンプライアンス推進室長、編成局長が登壇し、放送における倫理面向上の実践や、関西の放送界における諸課題などについての討議に参加しました。

そして、2008年7月25日に行われた第3回からは、近畿地区のラジオ単営社9社が主催者に加わりました。この回では「制作現場のモラルと苦悩」をテーマにしたパネルディスカッションが行われ、当社からも東京編成制作センター編成部長がパネラーとして参加し、「発掘！あるある大事典Ⅱ」の問題を経た当社の番組制作現場の取組みの現状について報告しました。

ここまで3回にわたる「放送倫理セミナー」は、当社の起こした「発掘！あるある大事典」捏造事件が緒となったものであり、この事件を風化させることなく放送界全般の問題として捉え直そうという近畿民放各社の大きな視点に立った思いから展開されたもので、当社にとっても自分たちの再生への取り組みの中で極めて重要なものとなりました。

さらに現在4回目を2009年1月30日に開催すべく作業に取り組んでおります。当社は幹事社として参画し、当社内施設を会場にテレビマンユニオンの今野勉氏をゲストスピーカーにお招きし、基調講演をしていただく他、在阪各社の午後帯ニュース情報番組担当者によるパネルディスカッションを行う予定です。

今後もこの「放送倫理セミナー」について、当社は出来る限り積極的に協力、参加していきたいと考えています。

## 第10 おわりに

---

本レポートにおいては、2008年10月から12月に至る3ヵ月間の当社の再生に向けての活動をご報告申し上げます。また、本レポートは、社内の全ての局が執筆を分担しております。視聴者の皆さまには当社の役員・社員の決意ならびに活動をご理解いただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

冒頭に述べました通り、当社は社団法人日本民間放送連盟への完全復帰を果たし、また開局50周年の節目を迎えることができました。半世紀を支えていただいた視聴者の皆様に改めて感謝し、二度と皆様の信頼を裏切らぬことを誓う機会といたしました。

米国の金融危機に端を発した不況はとどまるどころを知らず、放送業界におきましても広告出稿の減少は深刻であり、放送事業者としても事業の継続のため様々な構造転換を検討する必要に迫られている状況です。しかしながら、放送番組の質の維持向上、視聴者の皆様に対するサービスの向上という命題を等閑視することはできません。このことを肝に銘じ、今後の事業運営にあたってまいります。

併せまして、関西テレビ活性化委員会におかれては、本報告書の内容を吟味され、十分に審議されることをお願い申し上げます。ご審議の結果頂戴したご指摘に関しましては、当社においてしっかりと検討させていただく所存です。